

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和6年度 第2回入間市総合教育会議
開 催 日 時	令和6年12月25日(水) 午後1時00分 開会、午後2時45分 閉会
開 催 場 所	市庁舎C棟5階 501会議室
議 長 氏 名	-
出席委員(者)氏名	市長 杉島理一郎 教育長 中田一平 教育長職務代理者 高山茂 教育委員 橋本清美 教育委員 山本和人 教育委員 齋藤良徳
欠席委員(者)氏名	-
説明者の職氏名	企画部副参事(政策担当) 浅見孝之 企画課副主幹 齊藤祐樹 企画部参事兼企画課長 横内建 企画課主幹 金子剛 教育総務課学校統合調整室長 中村正幸
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	(すべて公開) 1. 開 会 2. 挨 拶 3. 協議・調整事項 (1)教育改革について (2)教育大綱について 4. 報告事項 (1)ふるさと納税について (2)学校統合の状況について 5. その他 6. 閉 会

配 布 資 料	資料1:教育改革について 資料2:入間市教育大綱について 資料3:入間航空祭を活用したふるさと納税返礼品事業報告 資料4-1:学校統合の状況について 資料4-2:西武地区中学校 学校統合だより第1号 資料4-3:西武地区中学校 学校統合だより第2号 資料4-4:西武地区中学校 学校統合だより第3号
関係者職氏名	教育部長 浅見泰志 教育部次長 佐藤政史 教育部参事兼学校教育課長 山崎大志 教育部副参事(教職員指導担当) 岡崎公伸 教育部参事兼教育総務課長 新屋朋徳 教育総務課学校統合調整室長 中村正幸 教育総務課主幹 椿潤 教育センター所長 井上博子 企画課主幹 金子剛
事務局職員職氏名	企画部長 浅見嘉之 企画部次長 村田雄一 企画部参事兼企画課長 横内健 企画部副参事(政策担当) 浅見孝之 企画課副主幹 齊藤祐樹 企画課主事 新井隆弘
会議録作成方法	要点筆記
傍 聴 者 数	1 人

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

<協議・調整事項>

(1)教育改革について

市長就任2期目にあたり市政改革として掲げた3つの柱のひとつである教育改革について説明し、それに対して市長、教育長及び各委員が意見交換を行った。

(2)教育大綱について

入間市教育大綱の策定に向けた今後の進め方について説明し、それに対して市長、教育長及び各委員が意見交換を行った。

<報告事項>

(1)ふるさと納税について

令和6年度に実施した入間航空祭を活用したふるさと納税返礼品事業の結果について報告を行った。

(2)学校統合の状況について

西武地区及び宮寺・二本木地区における学校統合の進捗状況について報告を行った。

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
	(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する) <進行:企画部長>
	1. 開会
	2. 挨拶
	3. 協議・調整事項
企画部長	(1)教育改革について 教育改革について、企画部より説明を願う。
企画部副参事	教育改革について、説明する。 (資料1を説明)
企画部長	意見交換を行う。まず、市長より補足があれば、ご発言をお願いする。その後、委員のご意見ををお願いする。
市長	教育改革について、現状の教育を改革していくことではなく、新しいものを取り入れていくという意味である。教育は、学校だけではなく、社会全体で行っていきたい。誰かがつくるまちではなく、私たちみんなでつくるまちを実現したい。
教育長	教員は、児童・生徒の豊かな未来を創りたいという思いで教育を行っている。すべての児童・生徒が今の幸せを実感し、自分の可能性を伸ばせる環境づくりを行っていききたい。時代の変化に合わせて、良かったところは継続し、より良いものは積極的に取り入れていききたい。義務教育の時代から教育のみを学ぶのではなく、地域社会のなかで失敗も含め多様な経験を積むことで、主体的

発 言 者	発 言 内 容
高山委員	に学ぶ意識を高めることができると思う。私たちがつくるまちに、児童・生徒も含めることで、成長する機会を与えてほしい。社会全体で児童・生徒を育てる自覚を市民の方に持っていただきたい。 「今の幸せ」と「豊かな未来」という部分については、具体的にどのようなことか。
市長	今の幸せを担保したうえで、豊かな未来を創ることが重要だと考える。今の幸せが実感できるように、児童・生徒の学習環境を整備していきたい。また、生活環境や社会環境が良くなっても不登校などの社会課題が良くなるとは考えていないし、経済的に発展することだけが豊かな未来になると考えていない。幸せを感じるタイミングは人によって異なるため、ニーズを知ることが重要だと思う。
高山委員	今の幸せが実感できることは重要だと思う。学校生活が楽しく、居心地が良いと児童・生徒は幸せを実感できると考える。自分で解決する力や個性を伸ばすことも重要だと思うので、多様な経験を積むことで豊かな未来を創れると考える。
橋本委員	一般的に、子ども時代に経験したことを覚えている人は多い。コロナ禍の学校生活や私生活を経て会話が少なくなっている家族が一定数おり、自治会に入っていない世帯も多く、人と関わりが少ない状況で成長すると、自分の居場所が学校と家だけだと思ってしまう可能性がある。地域全体が連携して取り組むことで学校や家だけではない居場所をつくることが重要だと思う。
山本委員	「実社会をフィールドとして、学びを実践に生かす機会を提供する」という部分については、具体的にどのようなことか。

発 言 者	発 言 内 容
市長	藤沢中学校や上藤沢中学校の生徒がSDGs実践活動を行い、報告会を行った事例がある。市が取り組んでいる課題に対して、教育部局と連携し、生徒に参画していただいた。また、高校生と社会課題を考えて実践する事業も行っている。学問を学び、レポートにまとめることは重要であるが、社会のなかで体験し、活動することも重要だと思う。児童・生徒が体験や活動できるフィールドを作ることが必要だと考える。
山本委員	学びの場となる地域の方たちと児童・生徒が関わることも重要だが、学校生活のなかで友人や教員と関わることも重要である。「グローバル教育やキャリア教育などを推進するとともに、多様な学びの選択肢を広げ、子どもたちが自らの興味や関心を追求し、自分らしく成長することのできる環境をつくる」という部分については、具体的にどのようなことか。
市長	不登校の児童・生徒に対する居場所の支援やフリースクールについて着目されると思うが、本人が学びたいと思う選択肢を尊重し、どのような支援ができるか、型にはまらずに進めていきたい。
山本委員	学校では学べないことをSNSや動画から自発的に学び、職人になった事例がある。学校や地域社会から学びを提供するのではなく、児童・生徒が自発的に学び、社会に出てもらうことが良いと考える。不登校の児童・生徒が、SNSや動画から自発的に学んでいることや職場体験に参加していることを評価してほしい。
市長	入間市が目指すキャリア教育は、一般的な職場体験ではなく、キャリアが付くという意味でのキャリア教育を行いたい。キャリアを付けられる多様な学びや実践の場を提供し、社会に出た時に、一般的な新卒ではなく、キャリアが付いた新卒として出てほしい。

発 言 者	発 言 内 容
齋藤委員	地域社会全体が一体となって、子どもを支えていくことは重要だと思う。藤沢未来ネットが行っている事業に、農家になりたいと夢を持って参加している児童・生徒がいる。ボランティア活動の参加率について、学校によってかなり異なっている。市の方針を学校に示し、教員が前向きに検討してくれるようにしてほしい。
(2)教育大綱について	
企画部長	教育大綱について、企画部より説明を願う。
企画部副参事	教育大綱について、説明する。 (資料2を説明)
企画部長	意見交換を行う。委員のご意見を願います。
市長	教育の独立性を担保しながら、市長部局と教育委員会の教育方針の整合性を図る場が総合教育会議だと考える。一般的には、教育大綱や教育委員会が取り組んでいる教育施策は、市長部局の理念や方針と合致していると考えている。規定を細かくするために教育大綱を策定するものではなく、教育に対する市長部局の思いを表明するものとして策定したいと考えている。内容については、強い思いがあるからこそ、教育の現場を極力縛らず、自由に進めていただくために、分かりやすい内容にしたい。
教育長	教育振興基本計画とは別に教育大綱を策定することにより、市長部局の思いが明確となり、入間市として大きなプラスになる。大元となる理念や方針は教育大綱で示し、具体的な取組は教育委員会が実施したい。
高山委員	教育大綱と教育振興基本計画を別に策定するメリットは何か。

発 言 者	発 言 内 容
市長	市長の考える教育大綱(教育に関する考え)と実際の具体的な取組が結びついているかという確認など、総合教育会議の議論がさらに活発化すると考える。入間市として、目指すべき方向性や考えを示し、教育委員会と協議することで様々な案が生まれると考える。
高山委員	教育大綱を別で策定することにより、教育振興基本計画と教育の独立性について、鮮明になると考える。教育大綱があるなかで、教育委員会が進めていくことが重要だと考えるため、市長部局の思いを示してほしい。
橋本委員	教育大綱についての会議は、定期的に行っている総合教育会議以外に会議の場を設けて行う予定か。
企画部副参事	総合教育会議は毎年3回行っているが、令和6年度第3回から令和7年度第2回の総合教育会議で、教育大綱につながる題材を全国自治体の事例から取り上げる予定であるため、教育大綱のための会議を開催する予定はない。
山本委員	第1期と第2期の教育振興基本計画が公式ホームページに掲載されていない。過去の教育振興基本計画をもとに次期教育振興基本計画を策定していると思うが、教育振興基本計画は、具体的な計画性があり、国や都道府県の教育振興基本計画から参酌するものの、全てに取り組む必要はない。市長部局と教育の独立性を保ったうえで計画を策定してほしい。教育大綱は、入間市として、教育に対する願いを込めるものだと思う。整合性を図っていくなかで、入間市が必要としている計画と進め方を示しながら策定をしてほしい。
教育部長	過去の教育振興基本計画については、後日、提供する。
齋藤委員	教育大綱を別に策定することにより、入間市の方向性が分かりやすく示され

発 言 者	発 言 内 容
	るため、教育委員会や学校も一つの方向性として事業を進めることができると考える。
山本委員	学力が高い自治体として、小浜市の教育大綱を事例に挙げられていたが、それがすべてではないと思う。
企画部副参事	小浜市の教育大綱に学力が高い理由と結ぶ内容があるのではないかと考え、あくまで参考事例として挙げている。
高山委員	教育振興基本計画の見直し時期はいつか。
教育部長	令和7年度から事業計画の策定作業を始め、令和8年度に確定をする。
高山委員	教育大綱は、教育振興基本計画と同じくらいの内容量になる見込みか。
企画部副参事	教育大綱は、入間市としての理念や方向性を示すため、具体的な内容は示さない。そのため、教育振興基本計画と比較すると内容量は少ない。
	4. 報告事項
	(1)ふるさと納税について
企画部長	ふるさと納税について、企画部より説明を願う。
企画課長	ふるさと納税について説明する。 (資料3を説明)
企画部長	ふるさと納税の説明を踏まえての意見や質疑等あれば伺いたい。

発 言 者	発 言 内 容
山本委員	駐車可能台数に対し、2割弱の申込があったが、交通渋滞が発生しなかった理由は、申込が2割弱であったためではないのか。10割が来訪される想定で、シミュレーション等を行っていたのか。
企画課長	警備員を配置し、渋滞が発生しないように、道路上ではなく、駐車場内で駐車券の確認を行った。来年度も行う場合は、留意して検討を進めたい。
齋藤委員	寄附金について、具体的な活用方法は何か。
企画課長	寄附金の活用方法については、教育部と調整を行っている。
企画部長	(2)学校統合の状況について 学校統合の状況について、教育部より説明を願う。
学校統合調整室長	学校統合の状況について説明する。 (資料4-1から資料4-4を説明)
企画部長	学校統合の説明を踏まえての意見や質疑等あれば伺いたい。
高山委員	西武中学校に新校舎が新設された後に、野田中学校校舎はどのような活用予定か。また、宮寺・二本木地区小学校の統合後の他の統合予定はあるのか。
学校統合調整室長	野田中学校校舎の建物・土地については売却を考えているが、具体的には決まっていない。今後の統合予定だが、入間市公共施設マネジメント事業計画第2期には5つの統合を予定している。黒須小学校と高倉小学校、東金子小学校と新久小学校、藤沢小学校と藤沢北小学校、藤沢東小学校と藤沢南小学校、西武小学校と仏子小学校が令和11年から令和20年の間に統合予定をし

発 言 者	発 言 内 容
企画部長	ている。具体的な協議・検討は行っていない。 5. その他 委員より何かあれば発言願う。
高山委員	教育改革について、教育に対する市長の強い思いを感じた。学校の使命は、児童・生徒の生きる力や未来に向けた力をどのようにつけるか検討し、基礎を培うことだと考える。働き方改革を受け、体験学習や学習以外の活動などが削減され、児童・生徒の夢を育むチャンスが減少していると感じる。地域社会が一体となって、減少している活動の場を提供できるような教育改革を実践してほしい。
市長	全国にも多様な取り組みをしている自治体がある。入間市の児童・生徒にも夢を持って、自発的に挑戦してほしい。そのためにも、教育の自由度を上げたいと考える。
高山委員	部活動の地域展開を危惧している。やりたいことができなくなってしまう、児童・生徒の夢が減ってしまう可能性がある。
市長	スポーツ団体からは、総合型スポーツクラブになる可能性があるという意見があった。市内に設置されることにより、児童・生徒が多様なスポーツを学べる環境ができ、部活動につながると考える。スポーツ団体と学校がつながることもできるのではないかと考える。入間市として、支援していきたい。
教育長	子どもの無限の可能性について、可能性を減らしているのは大人だと考える。児童・生徒に夢を持ってもらうため、実際の現場を見せたい。オンライン留学を行っているが、今後の内容としてはプログラミング教育や金融教育を検討

発 言 者	発 言 内 容
	している。多様な経験ができる環境づくりを入間市全体で検討したい。また、部活動の地域展開については、非常に難しい問題である。生徒から部活動について楽しいと意見があるため、丁寧に検討を進めたい。
高山委員	地域展開についてスポーツ団体は、どのような考えを持っているのか。
市長	団体関係者は、仕事を持っているため、平日の時間帯の指導は難しく、また本来の活動時間を割く形になるため、両立ができるか調整を行う必要がある。
教育長	受け入れが可能なスポーツ団体は一定数あるが、少数である。スポーツ団体と同じように教員も働いているため、地域の方にすべて任せることに疑問を抱く方もいる。スポーツ団体とは意識を合わせていく必要がある。
高山委員	地域展開が始まった場合、経済格差による取組の差が出ないようにしてほしい。無償でできていた部活動ができなくなってしまうことがないように検討してほしい。
市長	保育の無償化により、今までの費用が別の費用として使えるようになり、幼児の習い事の参加者が増えた。地域展開についても、経済格差が教育格差にも繋がると考える。教員の働き方改革も含めて課題は多いと考える。また、産業界の方にも子供に夢を持ってほしいと考えている人がいる。産業界やスポーツ団体を巻き込み、持続可能な仕組みができないか検討している。市内には、教育や児童・生徒のことを考えている方が大勢いるため、地域全体が連携できる仕組みづくりを検討している。
企画部長	他に何かあるか。なければ、連絡事項として、事務局より、次回の総合教育会議の日程について申し上げる。

発 言 者	発 言 内 容
企画課長	連絡事項として、事務局より、次回の総合教育会議の日程について申し上げます。次回の総合教育会議は、令和7年3月26日の開催を予定している。詳細等が決まり次第、改めて連絡する。
企画部長	6. 閉会 以上で閉会とする。

議事のとん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 7 年 2 月 26 日

市 長 の 署 名 杉 島 理 一 郎

教 育 長 の 署 名 中 田 一 平